

第652回北里医学会招待学術講演会

(H27.3.18)

指導救命士への期待

山口 芳裕 先生  
(杏林大学医学部救急医学・主任教授)

指導救命士は、単に救急救命士の再教育で定められた時間数を達成させるための方策ではない。病院前救護における救急救命士のプロフェッショナルリズムを確立するための、重要な一歩と位置づけられる。では、プロフェッショナルとはなにか。プロフェッショナルはスペシャリストの「専門性」に加え、「リーダー」としての素養を兼ね備えたもののことである。つまり、最適化と変革・創造を担うものである。最適化とは与えられた環境の中で最大の効果をあげる(現状制度の最適な運用)ことであり、変革・創造とは今行っている仕事を中・長期的な視点に立って改善する、あるいは新しい価値を付加していく(処置拡大等)作業である。

指導救命士が病院前救護のプロフェッショナルとして広く社会から認められ、正当な社会契約に基づいて適正な自律性と自己規制の権限を保証されることを強く望んでいる。そしてこの新たな制度が、救急現場の実践的な教育指導体制の充実と、MCとの連携体制の強化・円滑化により、救急業務全般の質の向上につながることを期待している。

第653回北里医学会招待学術講演会

(H27.4.21)

右室機能 Up To Date 2015

Andrew Redington 先生  
(Cincinnati Children's Hospital Medical Center)

今回の北里医学会招待学術講演では、Cincinnati小児病院のRedington教授に“Ventricular interactions”についてご講演いただく。循環器系において、右室が良好な血行動態の成立に重要な位置を占めることが知られるようになって久しい。特にファロー四徴症の術後遠隔期、およびさまざまな原疾患の結果おこる肺高血圧症の臨床において、右室機能不全が異常な血行動態を引き起こし、右心不全症状が出現することはすでに広く知られている。しかしながら近年、心室同士が相互に影響しあい、たとえば右心不全では左室機能が影響を及ぼすし、逆に左心不全も右室機能に影響を及ぼすことが知られてきた。この心室間の関係性をVentricular interactionsと呼び、右室と左室を分けて議論すべきではなく、両心室の機能を相互間の関係性も含めて統合的に評価すべき新たな時代を迎えつつある。今回のご講演を通してVentricular interactionsのメカニズムや臨床的意義に関する新しい知見に触れ、日々の臨床と研究へ生かす知識を得る機会としたい。

お詫びと訂正

北里医学VOL.44 NO.2 (平成26年12月31発行)におきまして誤りがありました。関係各位にお詫びするとともに、ここに訂正させていただきます。

正しくは以下の通りです。

p.124 「The Kitasato Medical Journal和文要旨」タイトル部分

○運動**負荷**後の脈波伝搬速度の変化から評価した機能的動脈硬化度は糖尿病合併/非合併高血圧症患者の動脈硬化の重症度を反映する

×運動**演習**後の脈波伝搬速度の変化から評価した機能的動脈硬化度は糖尿病合併/非合併高血圧症患者の動脈硬化の重症度を反映する